

「私の頑張り印は日の丸」

明星学園 宮下 智

T子さん、自ら移動しているのは、洋式便所から降りる時だけだという。食事、入浴など、あとは職員が必ず誘って手を引いての移動だという。椅子に座ればその椅子に、床に座ればその位置で、職員の次の移動の誘いがあるまでそのままだという。良く言えば、その辛抱強さ、悪く言えばその主体性の無さ、いずれにしてもTさんが豊かな生活を送っていないのだけは明白な事実だった。

Tさんには、額の真ん中に、直径5cmほどの湿疹がある。おそらく七～八年前に発症し、良くなったり悪くなったりを繰り返しながら現在に至っている。悪くなれば、カサカサして皮膚がぼろぼろ落ちるほどになり、当然痒くなるので、引っ搔いてしまって血が出ることもあるほどである。この湿疹、もちろん昔は無かった。そして、年末年始に帰省して、二週間も我が家で暮らせば、かなり改善してしまうことで、「そうか、原因は帰省かあ…」なんて思いながら、私たちの支援も、痒み止めの内服薬と、悪いときには、ステロイド系の軟膏を塗布する対症療法で止まっていた。

「行動すべてが発信である」という視点でこの額の湿疹を考えれば、絶対何かを伝えたいはずの身体症状であるのだが、支援の手詰まり感は、隠せない事実だった。支援が手詰まりの時、私たちは必ず、うまくいかない原因を帰省に求めたりしてしまう悪癖がある。

Tさんのご両親はかなりのご高齢である。以前に比べれば、面会も帰省も思うに任せない。帰省時の介護の負担も昔の比ではないだろう。そんな環境要因の変化が自分たちの支援の手詰まり感の言い訳になっていた。

* * * * *

さっそく、Tさんの生活全般の見直しと長期に渡る大きな支援の流れの確認作業が始まった。

彼女のイヤは、今から十年ほど前、母親がお便所に行こうと誘った時に、手すりを掴んで動こうとしなかったところから始まっている。彼女には、その当時から大きな課題行動が無い。大変申し訳ないことだが、入所施設において、こんなタイプの方々の支援はとかく薄くなったり、後回しになったりしてしまうことが多いので、この時の強いイヤの発信には、遅かりしといえども大きな期待が皆から寄せられた。その後、彼女のイヤは味噌汁イヤ、ラーメンイヤに広がった。どうもしょっぱい汁の感じがイヤらしい。嚥下を含めて、飲み心地が悪いのかもしれない。

学園でまず食べなくなり、そして家庭でも食べなくなった。この間三～四年、彼女の自己変容の姿は、いつもじっくりだ。

そして、支援の方向は「おしゃれ」に移っていく。外出時に服の購入、次第にかわいらしい服を購入して来るようになる。それと同時に、髪留めピンや髪を長く伸ばしたい要求が始まる。そんな自己決定、自己選択の相談時に用いる写真カードの選択も次第に確実になり、どの職員にとっても分かりやすい姿に少しずつ変化しつつあった。

が、彼女の一日の暮らしぶりは、前段の通りである。自己決定の姿は、外出の内容の相談時に認められているだけで、日常的には、彼女はほぼ職員の言いなりに暮らしているだけだったのだ。職員に食事だと言われて、手を引かれ移動し、入浴だと言って手を引かれ、寝る時間だよと言われて、手を引かれて良い子そのものに布団に寝入っていたのだ。

* * * * *

皆さん、日常生活の中での最大の自己決定は、何だと思いませんか？自分の生活を振り返ってみると、良く分かるのですが、それは、人間の生理的な欲求に根差したところにあります。排泄の時間、自分で決めていますよね。もちろん大人になってからの話ですよ。乳幼児の頃は、排泄時間は養育者が決めていたりします。それでも第一反抗期のことを考えれば、排泄時間が大事な自己決定の要素であることがわかります。オシッコに行くか行かないか、ウンコをするかしないか、第一反抗期時には、往々にしてこれをネタに母子のバトルが始まります。

そして、就寝時間、これも大人になれば、みんな自分で決めています。当然、自己決定には、自己責任が生じますから、オシッコをしないと云ったらオシッコの失敗は許されないし、遅く寝た時には、学校や会社への遅刻は許

されないわけですが。

ここが、重度の知的障がいがある方が入所施設などで集団生活を送るときの大きな支援上の躓きになりやすいところですよ。お分かりになりますよね。排泄時間、就寝時間、なんか守るのが当たり前の空気が暮らしの場に流れていませんか？支援者の無意識にもこれがしっかり刷り込まれています。みんなが同じ時間に排泄に誘われ、就寝に誘われることに誰も疑問を感じ難いのです。繰り返しになりますが、支援者自身は、絶対に排泄時間も就寝時間も自分で決めていて、誰かの言いなりになっているなんてことは無いはずにもかかわらず疑問を感じないのです。これって不思議ですよ？でも、これが自分たちに染みつけた常識の力なのです。同調圧力なんて言い方もあります。なんとなくみんな同じじゃないといけないような気がする…、そんな力のことです。

* * * * *

さて、彼女、最初の日常的な自己決定支援は、就寝時間がターゲットになりました。居室へ誘導してしまえば、寝入ってしまう彼女ですから（しかも彼女の寝方は百点満点です。パタンキューで寝入って、寝入ったら最後非常ベルが鳴っても起きないくらいの熟睡です）、まずは、就寝時に、「居室に行くか、職員室に行くか」の選択場面を作ります。もちろん彼女の選択は、「職員室」、そして職員室では、およそ一時間おきくらいに「寝る」か「寝ないか」の自己選択場面を作ります。さらに「寝る」もこのまま「職員室に寝る」か「居室に寝る」かの選択があります。

そして、次に始まったのが、入浴後に着用する服の自己選択場面です。職員が、二種類の衣類を片方ずつの手に持ち、彼女に選択をしてもらうのです。

すると…。

まずは、就寝場面。職員の就寝の誘いに、彼女は「ブーブー」と唇を震わせて、一向に移動しようとしません。十時が過ぎ、十一時が過ぎ、そして一時、二時まで、そんな夜が続きます。あれほどパタンキューと寝ていたこの間までが嘘のようです。あまりに移動を嫌がるときには、「ここで寝るの？」と問えば、「ここで寝る」とのこと、職員は、布団を居室から運んで職員室に設置、彼女は一晩中煌々と明るい職員室で、ゴーゴーと気持ち良さそうに鼾をかいて、寝入ったのでした。もちろん、朝は、ちゃんと朝食までには問題なく起きています。

そして、衣類の選択。当初の微弱な選択行動が、経験を積むたびに大きくなっていきます。着たい衣類に大きなストレートパンチを放ったり、頭突きを繰り返したり、自己選択を、また伝えることを楽しんでいるような派手な行動が出現したのです。

* * * * *

するとどうでしょう？この間およそ二週間、彼女の額の湿疹は見る見る内に小さくなり、気がつけば赤みも引いて、ツルツルのすべすべ肌になっているではありませんか！

恐るべき、自己選択！

* * * * *

額に赤い丸、これが彼女の身体症状です。私が連想したのは、額に巻かれた日の丸の鉢巻です。日本人が頑張るぞ！と巻くのが日の丸鉢巻です。古くは、戦争、特攻隊を連想させ、現代ならオリンピックやワールドカップでしょうか。ただし、この鉢巻には、やや悲壮な感じが付きまといます。

彼女は良い子を脱したかった。自分の決めた人生を自分らしく生きたかった。せめて就寝時間、せめて自分の着る衣類くらいは自分で決めたかった。

でも支援者がなかなかそれに気がついてくれない。…一人我慢だ。…分かってくれるまで頑張るぞ！…さて、日の丸の鉢巻きでもして、ひと踏ん張りだ。…

こんな風にこの八年間を考えたらどうだろう？ツルツルのすべすべ肌になって、私は今こんな風に考えている。

そう言えば、彼女のお父さん、お味噌汁が嫌いだという話をした時、「日本人だから嫌いなはずはないのに」なんて言っていたような…。

WELCOME TO SATORU WORLD

障がい者支援施設 明星学園における心のケア

<http://homepage3.nifty.com/myojo-satoru/>